

先週例会報告

関西国際空港ロータリークラブ

第1228回例会 2月27日

会長報告

当たり前の事ではありますが、皆さんは朝目が覚めてここへお越しになっていると思います。夜に布団に入って眠る。そして朝になると目が覚める。幸せな事ですね。目が覚めない事もあるんですよ。

先週、私の家内の母が亡くなりました。享年98歳で大往生でした。その時に来て下さったお坊さんが良い話をして下さいました。「皆さんはこの世の中に魂を持って生まれて来ました。人間に生まれて皆さんと同じ地域で育つというのは奇跡です。」という話でした。

義母を見送り、最後は灰になって骨を拾います。皆さんも同じ事をされていると思います。地域によって、鳥の餌にして還元するような所もあるようですね。

皆さんとこの時代に、同じ時期に、同じ場所に生まれたという事は、奇跡だと仰っていました。地球が出来て46億年。この間に人間が出来て1万年か2万年。そこからエジプト文化が出来たのが5~6千年前。人間の一生の間に文明が受け継がれ進んできて、文字が出来たり言葉が出来たりしてきました。

先日も、ロケットが月に降りた、太陽が当たったら通信が出来たというニュースがありました。この事を研究している人達も、いずれ亡くなっていく。でも、またそれを受け継いでいく研究者が出て来て、また進んでいくのだらうと思います。

そのように受け継いでいくから、時代が前に進んで今の時代があるのだと思います。最近、月にロケットを飛ばしたりしていますが、ロシアは月を開発するよりシベリアを開発する方が良いと思うんです。

あれだけの土地があって開発すべき所が沢山あるのに、なぜ他所へ行くのかな？と思います。そういうことを考えると、日本は平和な国だなと思います。

会長 宮内 良平 君



幹事報告

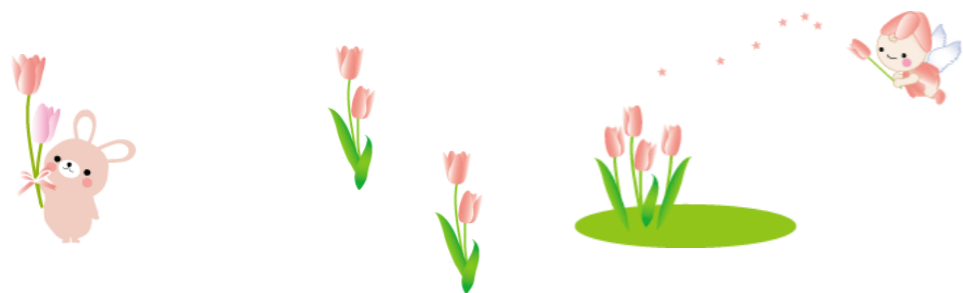
【回覧】

- ◎創立27周年記念例会出欠表
変更ございましたら、事務局までお願い致します！
日時：2024年3月19日(火)18時～
場所：ホテル日航関西空港2階「桃李」
会費：御一人様10,000円（4月～6月の会費請求にて徴収致します）
- ◎他クラブ例会情報

【配付】

- ◎(株)クマヒラ・ホールディングス会長 熊平雅人様より「抜粋のつづり」
バックナンバーも沢山ございますので、宜しければお持ち帰り下さい。

幹事 筒井 敦子 君



卓話

《第12回 あのねフェスティバル》

向井 新 君

2月23日(金)に、第12回あのねフェスティバルを開催致しました。この会を始めたのは、むか新が120周年を迎えた時です。50歳の頃、家の掃除をしていたら私が小学生の時に書いた作文がでてきました。「えきには、ものすごいたくさんの人がいてた。ぼくは、ふみつぶされると思った。ぼくは心の中で叫んだ。『ここには、こんなに小さいあらっちゃん(僕)という子どもがいてるんやでえ』今こんな作文なんて絶対書けません。こういう事は大事にしないといけないと思いました。そして、いつか仕事を引退した時に何か世の中にご恩返しすることが出来たら、子供達のこういう詩や作文を募集して表彰するような事をしたいと考えるようになりました。

こうして65歳の頃、むか新は120周年を迎え、実現する事が出来ました。誰を呼ぶか、という話をしてたところ、娘が「先生あのね」という本を持って来ました。これは面白い！と著者の鹿島和夫先生とお会いして、審査とご講演をお願いしたところ、快く引き受けて下さり、泉の森ホールで「あのねフェスティバル」を開催致しました。

当時、参加して下さいった小学校は2校ほどだったと思います。私自身は、これで終了と思っていたのですが、社内で「来年どうしますか？」という話になり続けていく事になりました。

2年目になり、何処か協力して下さいるような所がないかと考え、色々当たって見たところ、灯台下暗しで「泉佐野市文化振興財団」の当時の理事長さんが引き受けて下さり、色々連携を取って下さる事になりました。

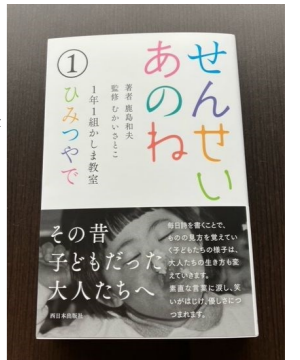
今では後援に泉佐野市、岸和田市、貝塚市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町の各教育委員会が入って下さりまして、本当に楽になりました。

最初の頃は先生方から「営利目的でやっているのでは？」と言われてたりもしましたが、文化振興財団が間に入って下さった事で、スムーズに話を進める事が出来るようになりました。

今では応募の数が膨大なので、選考会でもなかなか作品が決まりません。小学校低学年くらいの子の作文って本当に可愛いんですよ。

鹿島和夫先生は、ちょうど阪神大震災の頃、何も話そうとしない子供に「先生あのね」から始まる交換日記を始めたんです。そうすると、普段殆ど喋らない子供がすらすらと気持ちを書いて来る。「この子はこういう事を考えていたのか。」と非常によく解ったそうです。これが「あのね教育」の始まりです。

残念ながら鹿島先生は昨年「あのねフェスティバル」の前日にお亡くなりになりました。今年は奥様が参加して下さいました。今年の作品をいくつかご紹介したいと思います。



あり	て	家	い	「	「	け	ぼ	長	順
か	思	事	や	お	こ	ん	く	坂	行
た	う。	も	ど	前	こ	が	の	小	ん
い	そ	し	ち	な	ち	は	お	学	か
け	の	て	も	ん	か	い	母	校	の
ん	と	る	任	も	し	つ	さ	中	身
か	き	や	事	し	て	も	ん	身	
や		と	し	な	い	お	と	6	
な			し	い	や	お	父	年	
も			し	ん	ん	お	さ	1	
も			て	ど	い	お	の	組	
思			て	い	っ	父	の	名	
っ			い	や	て	心		前	
た。			ん	ん	し	屋		山	
			い	い	ょ			石	
			ん	ん	。			田	
			い	い				志	
			ん	ん				心	
			い	い				屋	

最優秀賞